

京浜臨海部コンビナートの課題と目標

京浜臨海部は、石油精製・石油化学・鉄鋼等の基幹産業が集積し、長年にわたり日本経済を牽引してきました。近年は、研究開発機能等も担い、引き続き我が国の産業競争力を支える素材・エネルギーの供給拠点として重要な役割を担っています。

一方、これらの産業を取り巻く国際的な競争環境は激しさを増しています。また、エネルギー多消費型の産業でもあることから、地球環境問題への対応も求められています。さらに、自然災害への備え、産業保安対策の強化も求められています。

こうした課題への対応は、個別企業レベルではこれまでも取り組まれてきましたが、今後、一層の展開を図るためには、企業や業種の垣根を越えた企業間の連携による取組みが重要となります。

そこで、生産活動の効率化や資源・エネルギーの有効活用に繋がる企業間連携の取組み及び実現方策等を検討するとともに、その事業化を図ることにより、既存産業をより高付加価値型へと転換し、環境共生型のエネルギー産業の集積をめざすことを目的として、平成20年1月に京浜臨海部立地企業や関係行政機関等により、「京浜臨海部コンビナート高度化等検討会議」を立ち上げました。

検討会議では、「京浜スマートコンビナートの構築」を目標像として掲げ、立地企業に共通する課題について様々な検討を行っており、地域内での強力なネットワークづくりが進んでいます。

京浜臨海部コンビナートの強みと課題

強み 1 優れた立地条件

- 川崎市川崎区、横浜市鶴見区・神奈川区（京浜3区）の海側約4,300haの産業集積エリアに位置する京浜臨海部コンビナートは、人口や企業が集積し、我が国最大の消費地である首都圏に立地しています。
- 京浜港や羽田空港に近接し、首都高速道路をはじめとする道路網も整備されており、陸海空の交通結節点となっています。
- また、都市に近いことから、リサイクル可能な使用済み製品が豊富に存在しています。このエリアでは、1997年に認定された川崎エコタウン事業に代表されるように、循環型社会形成に向けた取組みも先導してきました。



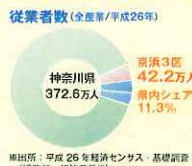
強み 2 高効率・高付加価値型の産業が集積し、我が国経済をリード

- 京浜臨海部は、石油精製、石油化学、鉄鋼、セメント、化学、電力、ガスといった多様な産業がフルセットで立地し、長年にわたり我が国経済を牽引する役割を担ってきました。
- 近年では、省エネ・省資源型の生産への取組みや、最先端の研究開発により、環境に配慮した高効率・高付加価値型のコンビナートに生まれ変わっています。



強み 3 地域の経済や雇用に貢献

- 京浜臨海部は、面積では神奈川県全体の4%にすぎませんが、従業員数では11.3%、製造品出荷額等では24.2%を占めており、地域の雇用や経済を支える重要な役割を担っています。



課題 1 国際的な競争環境の激化

- シェール革命による安価な石油化学製品の流通や中東・アジア等における大規模かつ最新鋭の生産施設の新増設は、小規模・分散型の我が国のコンビナートの大きな脅威となっています。
- 国内市場では少子高齢化等を背景として、需要の縮小は避けられません。

課題 2 地球温暖化をはじめとする環境問題への対応

- 京浜臨海部にはエネルギー多消費型の産業が集積しており、地球温暖化対策の一層の推進が必要です。川崎エコタウン事業の確実な推進と深化など、循環型社会形成に向けた取組みも求められています。
- 同時に、高度成長期に生じた公害問題に取り組む過程で蓄積された世界最先端の環境技術を持つ産業が集積していることから、環境分野での国際社会への貢献が期待されています。

課題 3 自然災害への対応と産業保安の強化

- 首都直下地震や南海トラフ巨大地震等の発生が切迫性が高まる中、災害時に素材・エネルギーの安定供給を図るためにも、コンビナートの強靱化が求められています。
- また、京浜臨海部には高経年化した生産設備を有する立地企業も多く、ベテラン技術者の退職などもあいまって、産業保安の強化が求められています。

京浜臨海部コンビナートの目標

京浜臨海部コンビナートの課題に対応し、強みを活かした取組みを進めるにあたり、検討会議のメンバーが共有するための目標を設定しています。（平成23年5月にとりまとめた「京浜臨海部コンビナート高度化等検討会議報告」から）

基本目標

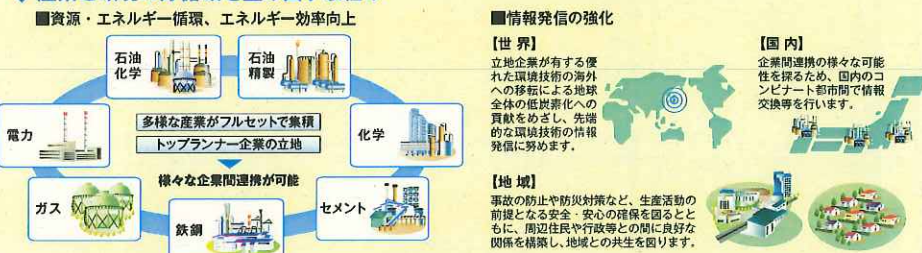
- 1 国際競争力の強化
 - 2 地球温暖化をはじめとする環境問題への対応
 - 3 安全・安心の確保と地域との共生
- 4 規制の見直しや新たなしくみづくりに向けた提言

目標像

京浜スマートコンビナートの構築

- ▶生産活動の高効率化や高付加価値化、エネルギー効率向上を追求するトップランナー企業の集積・連携により「産業と環境の調和と好循環」を実現するコンビナート
- ▶先進的な環境技術、資源生産性が高く環境負荷の小さい生産モデルを世界に発信するショールーム

◆ 産業と環境の好循環を生み出す取組み



◆ 競争力を支える事業環境整備に向けた取組み

- 物流機能の強化
- 操業環境の充実
- 人材の確保育成

◆ 安全・安心の確保のための取組み

- 保安機能の充実

京浜臨海部における

企業間連携の取組み事例

- 事例1 水素の有効活用によるCO₂排出量の削減
- 事例2 重質油分解装置の一体的運用
- 事例3 製鉄高炉スラックのセメントへの活用
- 事例4 火力発電所から周辺事業所への蒸気供給

京浜スマートコンビナートの構築に向けた今後の取組み

- ① 実現をめざす象徴的な取組み
- ② 今後も担い続ける拠点機能の強化